

急加速する！八戸MM教育

GIGA
スクールにも
即応!?

- 八戸市教育委員会 ●佐々木亮子(八戸市教育委員会教科等研究委員:八戸市立白鷗小学校) ●市村徳子(八戸市教育委員会教科等研究委員:八戸市立旭ヶ丘小学校)
- 福土貴人(八戸市教育委員会教科等研究委員:八戸市立多賀台小学校) ●八戸市 ●八戸市地域公共交通会議
- 公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 ●NPO法人 まちもびデザイン:関下和裕・伊地知恭右



事業概要

出前教室形式でMM教育を実施してきた八戸市(H24~H30年度延べ実績:小学校34校、中学校27校)。「公共交通を学ぶ、公共交通を通じて学ぶ」ことの意義が浸透してきた中、交通エコロジー・モビリティ財団の3か年助成(H31~R3年度)を機に「先生自身が授業を行うMM教育」が始動した。

point 教育委員会の研究課題として位置づけ

◆教科等研究委員会(R2~R3年度)

- ・当初は社会科での研究を予定していた。
- ・一方、新学習指導要領で掲げられるカリキュラム・マネジメントでは教科横断的な学習が重視されている。
- 総合的な学習など幅広い授業展開を期待するために、教科等研究委員会「現代的な諸課題研究分野」で取り扱うことに。1名の主任指導主事、3名の先生・3つの学校が携わる充実の検討体制で臨む!

◆検討組織の充実

- ・3か年の事業を進めるプラットフォームとして検討会とWGを設置。
- MM教育先進地札幌のキーマン新保元康先生(特定非営利活動法人ほっかいどう学推進フォーラム理事長)にも参画いただく賛沢な布陣!



MM教育で育成される『MM力』



時期	研究授業 & 副読本	検討・WG
R2年2月	コロナ前の予定	・事業概要の確認 ・他地域事例の整理/先進事例の学習
3月		・八戸市及び新学習指導要領における社会科学学習目標・内容等の整理
5月		担当教諭の決定(3名)
7月	★第1回研究授業	・研究授業内容の検討
9月		★第2回研究授業
10月	◆副読本トライアル版の作成	・研究授業の成果と課題の整理
11月		・研究授業の成果と課題のフィードバック方法 ・副読本トライアル版の内容検討
12月		・研究授業内容の検討 ・副読本トライアル版の精査
R3年6月	★第3回研究授業	・研究授業の成果と課題の整理 ・副読本の内容検討
8月		・研究授業の成果と課題のフィードバック方法 ・副読本の内容検討
10月	◆副読本作成	・副読本の精査
11月		・八戸らしい授業プログラム及び副読本の精査 ・事業終了後の展開、フォローについて
12月	◆副読本の製本・配布	・副読本の精査
R4年1月		・副読本の精査
2月		・副読本の精査
3月	・副読本の精査	

point 加速するGIGAスクール...動画コンテンツに切り替え!



◆授業を支える=授業の普及を支援するツールは...副読本?

- ・MM教育の最後の課題...「一定の質を保ちながら普及する」こと。
- ・そのためには先生方に無理なく理解、共感し授業を行える「支援ツール」が必要。
- ・当初は社会科の教科書・単元と関連つけた副読本の作成を予定していた。
- ・一方、コロナ禍の中、急速に推進されていくGIGAスクール。
- ・なのに...ローカルなコンテンツづくりが全く追いついていない... ※全国的な課題
- 子どもが関心を寄せやすく、専門的な、大切な要素をまとめた 動画コンテンツをつくろう! と方針転換。
- 研究授業での活用に向けて、2本の動画(お試し版)を急造。R3年度に動画本編を作成予定。
- 5年生向け「バスマップの活用方法」3年生向け「バスの利用者はどんな人?」

ローカル
コンテンツの
先駆けにも!

旭ヶ丘小学校5年生での指導計画 / 8時間

1. 自分たちで行けるところはどこだろう (2時間)

- ◆課題把握
 - 高学年になり、子どもだけで公共施設に行くことができる!
 - でも、どうやって行けばよいのか分からない。どのような方法があり、どんなことができるようになったら、行けるかな。行けるようになりたい!
 - バス利用に関心をもつ。
 - 路線バスってどんな人が何のために使っているのだろう。
 - アンケート結果

- ◆課題設定
 - バスを利用するには、どんなことができるようになったらよいのか、調べたいことは?
 - バスの行き先って? ・どこの停留所? ・何時のバスがあるの? ・料金は?
 - ・お得なバスポートとか回数券とかあるの?
 - どうやって調べればよいか調べてみよう。

2. バスの使い方について調べてみよう (3時間)

- ◆自力解決・集団解決
 - バスの行き方を調べてみよう。
 - 料金や時刻表を調べてみよう。
 - お得なシステムであるのか調べてみよう。
 - 自分たちでもバスを利用して行けそう。
 - なぜ色々な調べるツールがあるのだろう。
 - バスを利用する人が困らないため。

ここで調べた情報をもとに3学期教材「情報を生かす運輸業」で学習を深める。



3. バスの利用について考えよう (3時間)

- 子どもたちだけで公共施設に出かけることほかに、バスを利用できそうな機会はないかな。
- 三社大祭
- ・お出かけ
- ・高校生になったら通学
- ・仕事に向かうとき
- バスは必要な交通手段の一つ
- 調べて分かったこと、考えたことをまとめよう。

※5年生では情報(化)について学ぶ単元があり、バスマップやwebでの時刻検索や経路検索は、この単元に結びつけることで、学習機会が広がり、深い理解が期待できる。

今後の展開

八戸MM教育の目標=目指す子どもの姿=「状況に応じて移動手段を選択できる子ども」「持続可能性に配慮し主体的に移動手段を選択できる子ども」。R2~R3年度の研究授業・実践を重ねながら、目標に向かって授業づくり、授業支援ツールづくり(動画コンテンツ+α)を進めていく。

授業の振り返り & 積み重ね

- 「自分ごと」として考えるきっかけ: アンケートで意識と行動の乖離に気付く/「自分でおでかけしたい」という機運づくり など
- 自分ごとの先に、家族、まち・社会などへの広がりを持たせる仕掛け: 保護者を巻き込む手立て(家族への手紙・提案) など
- バスをクルマを場面に応じて使い分ける、選択することの大切さ、自分の選択と社会の関わり

支援ツールの改善

- 動画は子どもたちも集中しやすく、先生にとっても 授業準備の負担軽減・授業の質の向上に有用
- 問いと答えの対応、グラフなどの視覚化、ポイントごとに使えるコンパクトさなど、理解が進みやすい&授業の流れを考えやすい構成 が必要
- 「動画の上手な使い方」のような紙ツールも必要

普及に向けて

- 八戸のMM教育の中で「全ての先生にここだけ押さえてもらいたい!」というポイントを明確にする
- 4段階(公共交通を知る→調べて利用する→他の手段と比較する→持続可能性を踏まえた考え・選択)で深化していく学習プロセスの明確化
- 各プロセスに応じた指導計画、支援ツールなどの充実